

愛媛県農業信用基金協会

1. 愛媛県の紹介

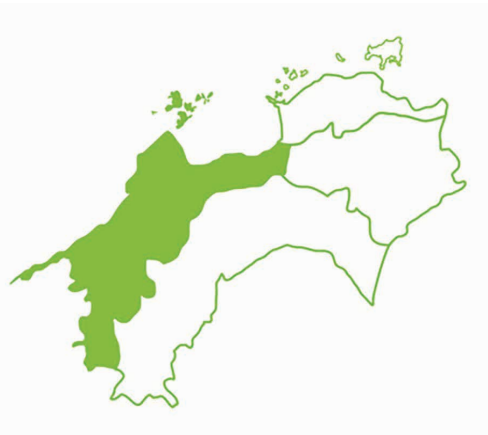
愛媛県は四国地方の北西に位置しており、面積は5,676.23㎡、人口は129万人（令和5年9月）となっています。県内は中予・東予・南予の3地域に分けることができ、瀬戸内海側（中予・東予）は温暖で雨が少なく冬でもあまり雪が降りませんが、宇和海側（南予）は台風や黒潮の影響を受けて雨や雪が多いなどの特徴があります。

愛媛県は旧国名を伊予国と言い、古事記には「伊予国は愛比売（えひめ）と謂ひ」との言葉が残されています。このなかの「えひめ」は「うるわしい女神」との意味合いの神名であることから、愛媛県は全国で唯一の神名を付けた県と言われています。

愛媛県の観光名所である道後温泉は、3000年の歴史を持つ日本最古の湯とも呼ばれており、聖徳太子の訪湯、日本書紀、万葉集及び源氏物語などの記述、夏目漱石の小説「坊っちゃん」の舞台や、アニメ「千と千尋の神隠し」に登場する油屋のモデルと言われているなど、正に愛媛県のシンボルとして現在も多く観光客が訪れています。

その他、当県今治市と広島県尾道市を結ぶ瀬戸内しまなみ海道は、瀬戸内海に浮か

ぶ芸予諸島の島々を橋で結び、新尾道大橋以外の各橋には、原動機付自転車道及び自転車・歩行者専用の道路が整備されています。眼下に多島美を眺めながらサイクリングが楽しめるという日本を代表するサイクリングコースとなっていて、6千人以上が参加する国際サイクリング大会も開催されています。



2. 愛媛県の農業

愛媛県の農業と聞くと、おそらく多くの方が「みかん」と答えるのではないかと思います。近年では「紅まどんな」を代表する高級柑橘の開発に取り組んでおり、これらは都内では高値で取引されているものもあるようですが、県内では比較的安価で一般的なスーパーにも多く出回っており、箱買いをする人を頻繁に見かけるなど、やはり「みかん」は愛媛県民にとっては身近で

大切な農産物となっています。



紅（べに）まどんな

柑橘類に次ぐ農産物としては畜産が挙げられます。特に養豚は飼養頭数が中四国第一位であり「愛媛甘とろ豚」、「ふれ愛・媛ポーク」などのブランド豚が生産されています。「媛っこ地鶏」、「愛媛あかね和牛」など各種畜産物のブランド化も進めており、他にもキウイフルーツやはだか麦が生産量日本一であるなど、様々な農作物が生産されています。

愛媛県において各種生産物のブランド化が進む背景としましては、愛媛県では平成18年から「愛媛産には、愛がある」をキャッチフレーズとした、優れた農林水産物及び加工食品を「「愛」あるブランド産品」に認定する運動が行われており、商品価値の向上や消費・販売の拡大を図っていることが

挙げられます。愛媛県内を歩いていると「愛媛産には、愛がある」と書かれたポスターやシール、Tシャツなど各種商品が多く見られ、県民だけでなく愛媛県の訪問客にも広く周知されている活動となっています。



愛媛甘とろ豚

3. 愛媛県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事7名（うち常勤1名）、監事2名、職員13名で2部（総務部・業務部）、3課（総務課・管理課・審査課）体制による業務を行っています。



4. 愛媛県農業信用基金協会の活動

当協会では、平成28年度より「JAバンクえひめ農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の一環として「JA農業おまかせ資金」を開発・債務保証しています。本資金は農業者にとって分かりやすく様々な資金用途に対応できる商品として開発された愛媛県で初の県下統一農業関係資金であり、令和4年度では農業関係資金実行件数の8割以上を本資金が占めているなど、その利便性から農業者及びJAの支持を得ている商品となっています。

また、ローン審査では常にクイックレスポンスを心がけた対応を行うことで、JAからは他保証機関よりも回答が早いとの評価をいただいた結果、令和4年度におけるJAローン新規実行件数では約7割のシェアを獲得しています。

今後は、農業者等に対する価格高騰対応が求められていくものと想定されますが、融資機関との関係強化を図り、農業者等のニーズに沿った債務保証を実施していくことを意識して取り組んで参りたいと考えています。